

地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業 京都府の事例（2022年度～）

<取組の内容>

【実施体制の整備】

- 支援コーディネーター、臨床心理士等で構成された「ユース・アシスト(立ち直り支援チーム)」、地域に密着した居場所である「ユース・コミュニティ」を設置し、府内の「学校」、「児童相談所」、「若者サポートステーション」等の関係機関と連携することで実施体制を整備。

【学習相談・学習支援の実施】

- 「ユース・アシスト(立ち直り支援チーム)」及び「ユース・アシスト(立ち直り支援チーム)北部サテライト」において、高校中退者が多く含まれる非行等の問題を抱える少年を対象に学習支援・就業支援等を実施。
- 本人の希望に応じ、企業やNPOといった協力団体での就労体験や若者サポートステーションへの誘導を実施。

【広報の取組】

- 業務運営委員会を年2回開催し、具体的方策等を検討、チラシによる学習支援・就業支援事業の周知を実施。

<取組の成果>

- ユース・アシストの支援では19名、ユース・コミュニティでは43名、合計62名の相談・学習支援の利用があった。利用者のうち、3名が高卒認定試験を受験し、1名が合格(その後大学進学)した。
- 問題を抱えた少年は、孤立しがちであるが、今後の進路等に向けて相談できる大人がいることで、将来に目標がもてるようになったり、定期的な学習により、暴力等の問題行動が落ち着いたケースも見られた。

<今後の取組>

- 非行等の問題を抱え、不登校・低学力といった困難を抱えた生徒が多いという課題について、関係機関との連携を深め、それぞれの問題意識を高めることで、今まで支援が届かなかった対象者への周知、利用の促進を目指す。
- SNSの活用や広報チラシの工夫を行うことで、対象者や関係団体担当者等にわかりやすい広報の実施を目指す。